

# 「東日本大震災」現地視察旅行を経て

技術委員 (株)第一コンサルタンツ 松井 繁信

## 1. まえがき

今回、はからずも高知県測量設計業協会において、東日本大震災の被災地である宮城県沿岸地域の名取市以北気仙沼市までの数カ所及び岩手県の陸前高田市を現地で見ることが出来ました。未曾有の災害であったとは言え、関係者の尽力にもかかわらず1年6カ月後の現地は復興にはほど遠く、まだまだ物心両面での全国的な支援が必要と感じられました。



名取市被災地の現状



石巻市立門脇小学校の遠望(右側奥)

技術的なレポートは、同行しました専門の技術者の方々にお任せすると致しまして、宮城県測量設計業協会の幹部の方々との貴重な意見交換、現地地方公共団体の幹部職員による丁寧なご説明、東北人にもかかわらず職業柄多弁であったガイドさん、そして訥々と話された、一人で行った小さな居酒屋のご主人等との出会いのなかで、私が感じたことについて駄文をものしてみたいと思います。

## 2. 災害に対する備え

「東日本大震災」は、マグニチュード9.0と発表され気象庁観測史上最大の地震でした。高知県もその歴史のなかで数々の大地震・津波の洗礼を受けています。新しいところでは、1946年12月の昭和南海地震、1960年5月のチリ地震津波によって大きな被害を受けています。現在予測されている地震・津波に関しては、中央防災会議による『南海トラフの巨大地震モデル検討会』の中間とりまとめ(2011年12月発表)では南海トラフで起きる連動型巨大地震の最大規模としてマグニチュード9.0が暫定値として示されています。つまり、地域差等による若干の違いはあるにしても、「東日本大震災」と同規模の地震・津波が予測されている訳です。したがって、同震災に学ぶことは来るべき東海・東南海・南海地震に備えるための必須条件となります。

昨年の震災後「想定外」の言葉が多方面で飛び交いましたが、一部を除いて多くの人々にとってはまさしくそれが本心から出た思いだった

のではないのでしょうか。しかし、いま、悲惨な事象ではありましたが現実に起こった事象を参考に「想定」を行い、被害を少しでも軽減することが我々の責務だと思います。



道の駅「高田松原」で供えられていた花束

人々の安全な生活を守る役割を担う業務・組織に携わる者は、目の前の狭い経済的、社会的判断にとらわれ、あるいは、歴史的事象を尋ねようとせず、また、正當に評価せずに物事を決定するようなことの無いようにしなければなりません。多くの犠牲を教訓として受け止めて生かしていく必要があります。



津波による土地と道路橋上部の流失

### 3. 会社としての備え

弊社の本社も、高知市内の平坦地に立地しているため、規模の大きな地震・津波の際には例外なく甚大な被害が想定されます。このため、「建設関連業が果たす役割」(平成24年3月国

土交通省・建設産業局建設市場整備課)で建設関連業の活躍として紹介されているような災害時の活動を目指して、災害発生時の指揮命令拠点確保、業務関連システムやデータの保全等々、想定される被害の軽減をも含めたBCP対策を検討しているところです。

また、上記で紹介されている「東日本大震災の復興に関する緊急提言」(社団法人建設コンサルタント協会 東日本大震災の復興に関する緊急提言委員会)に盛り込まれている趣旨を今後の業務において発注者との協議や提案に少しでも生かしていくための研鑽も必要です。

宮城県測量設計業協会の幹部の方々との意見交換では、この件に関しても、社員の安全確認や業務指揮等の連絡方法、業務実施に必要な電力・燃料等の確保、被災地域以外との連携・協力体制の構築、業務の実施に当たっての手戻りの防止策や調査分析の仕様統一の必要性等、実際の経験に基づく有意義な助言を得ることが出来ました。

### 4. まとめ

地元の人々のお話を聴かせていただくなかで、事前の備えは、安全や被害の軽減を図るため周到な検討と対策立案が当然必要ですが、自然の営みが全て解明されている訳でもありませんし、神ならぬ身ですので万全を期すことは困難だとの認識に立ち、早期の避難を念頭に置いた常日頃の対策の周知と訓練の実施が最重要との感を受けました。

また、「備え」に関しては、被害軽減のための事前の「備え」だけではなく、速やかに社会環境を復興し、より安全な生活を取り戻すための事後の「備え」も大事ですが、これは、混乱と物資の欠乏しているなかで実施することになる訳ですので、直ちに被災前の全面復旧にこだわらず、優先して復旧する分野を明確にする方針の早期決定と、マニュアルだけに頼らない、予

測能力と考える行動する能力の涵養が必要だと思えます。



気仙沼市内での秋祭り

最後になりましたが、東日本大震災に遭遇しなくなられた多くの方々のご冥福を願い、地元の復興と人々が元気を取り戻されるよう祈念致します。

また、今回の研修旅行にあたってお世話になりました皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成 24 年 10 月 4 日